

科目名 (科目番号)	食品・栄養 基礎セミナー (時間割参照)	教員名	伊部陽子	学科等	保健栄養	必修	履修年次	1
				曜日・時限等	時間割表参照	単位数	2	
				授業形態	講義	オフィスアワー	D307室	
授業概要	我が国の健康・栄養状態や食と栄養に関する課題、さらに地球規模での食と栄養の課題、それぞれの課題に対してどのような取り組みが行われているのかを学習する。これらの課題と取り組みを踏まえ、管理栄養士とはどのような職業であるのか、その役割や使命について学習する。そして、栄養や食に関する課題の解決策として、食行動の変容を促すための行動科学の理論やモデルの基礎を学び、それらを活用して課題解決に取り組むことができる栄養士・管理栄養士を目指す。							
目的・目標	目的:栄養や食に関する課題の解決に寄与できる栄養士・管理栄養士を目指すために、行動科学の理論やモデルを基礎として学び、それらを実践的に活用できるようになる。 目標:我が国および地球規模における健康・栄養状態や食と栄養に関する課題と、それに対する取り組みについて理解する。管理栄養士の役割や使命を理解する。行動科学の理論やモデルを学び、栄養や食に関する課題の解決策を理解する。							
準備学習	毎回の授業について少なくとも1時間程度の予習・復習をすること。							
授業計画	回	授業項目	到達目標・学習内容					
	1	栄養教育の概念	到達目標:日本の健康・栄養状態、食と栄養に関する課題と解決策を理解する。 学習内容:日本の国民の健康・栄養状態、栄養素・食品摂取状況の現状と変遷、および課題解決のための取り組みについて学習する。					
	2	栄養教育の概念	到達目標:地球規模での食と栄養に関する課題と解決策を理解する。 学習内容:世界の食文化、各国の栄養政策、地球規模での食と栄養の現状と課題解決に向けた取り組みについて学習する。					
	3	栄養教育の概念	到達目標:管理栄養士の専門職としての役割と使命を理解する。 学習内容:栄養士・管理栄養士の歴史と現状、および管理栄養士に求められる基本的な資質・能力について学習する。					
	4	栄養教育の概念	到達目標:栄養素、食品、食行動に関する情報の収集、分析、評価方法を理解する。 学習内容:食事摂取基準、各種食事調査法、食行動記録法、ならびに栄養教育での活用方法について学習する。					
	5	行動科学の理論とモデル (1)	到達目標:個人・個人間レベルの行動科学の理論とモデルを理解する。 学習内容:トランスセオレティカルモデル、ならびに栄養教育での活用方法を学習する。					
	6	行動科学の理論とモデル (2)	到達目標:個人・個人間レベルの行動科学の理論とモデルを理解する。 学習内容:計画的行動理論、ならびに栄養教育での活用方法を学習する。					
	7	行動科学の理論とモデル (3)	到達目標:個人・個人間レベルの行動科学の理論とモデルを理解する。 学習内容:ヘルスビリーフモデル、ならびに栄養教育での活用方法を学習する。					
	8	行動科学の理論とモデル (4)	到達目標:個人・個人間レベルの行動科学の理論とモデルを理解する。 学習内容:社会的認知理論、ならびに栄養教育での活用方法を学習する。					
	9	行動科学の理論とモデル (5)	到達目標:個人・個人間レベルの行動科学の理論とモデルを理解する。 学習内容:刺激反応理論、ならびに栄養教育での活用方法を学習する。					
	10	行動科学の理論とモデル (6)	到達目標:個人・個人間レベルの行動科学の理論とモデルを理解する。 学習内容:ソーシャルサポート、ならびに栄養教育での活用方法を学習する。					
	11	組織づくり・地域づくり・食環境づくりへの展開 (1)	到達目標:集団・組織・地域レベルの行動科学の理論と概念を理解する。 学習内容:グループダイナミクス、セルフヘルプグループ、エンパワメント、ソーシャル・キャピタル、ならびに栄養教育での活用方法を学習する。					
	12	組織づくり・地域づくり・食環境づくりへの展開 (2)	到達目標:集団・組織・地域レベルの行動科学の理論と概念を理解する。 学習内容:イノベーション普及理論、ヘルスリテラシー、ナッジ、ならびに栄養養育での活用方法を学習する。					
	13	行動変容技法と概念 (1)	到達目標:行動変容技法を理解する。 学習内容:認知再構成、意思決定バランス、モデリング、ソーシャルスキルトレーニング、ロールプレイング、デモンストレーション、ならびに栄養養育での活用方法を学習する。					
	14	行動変容技法と概念 (2)	到達目標:行動変容技法を理解する。 学習内容:目標設定、目標宣言、行動契約、自己効力感、セルフモニタリング、ストレスマネジメント、逆戻り防止、ならびに栄養養育での活用方法を学習する。					
15	行動変容技法と概念 (3)	到達目標:行動変容技法を理解する。 学習内容:行動分析、刺激統制、反応妨害・拮抗行動置換、オペラント強化、ならびに栄養養育での活用方法を学習する。						
成績評価の方法・基準	課題と小テスト(60%)、期末試験(40%)を総合して評価する(対面・オンライン共通)。							
教科書	学生・管理栄養士のための栄養教育論		丸山千寿子、 赤松利恵、中村菜々子編集			文光堂		
参考図書	授業時間内に適宜指示する							
教員からのメッセージ	昨年度の授業評価アンケート結果に基づく改善を施します。課題はコメント等を付して授業内で返却します。また、オンライン授業に伴い授業計画に変更がある場合は、オンラインクラスで変更のシラバスを周知いたします。受講生の理解度に応じて、学習内容の配分、順番を変更することがあります。変更する場合は、授業内または掲示でお知らせします。							